

## 事業名

山元こぐまサロンを活用した障害者の学びの場 共創プロジェクト3

## 主な連携先

ポラリス「こら・ふく」アトリエの会/ポラリス保護者会/山元町（保健福祉課・生涯学習課）/宮城県（生涯学習課）/どらごえサークル/ホップステップ/山元町基幹相談支援センターやすらぎ/宮城県立山元支援学校など

## 主な対象

主に就労支援サービスを利用している知的・精神・発達障害者等（20代～70代）

## 事業の趣旨・目的

- ①障害者が地域の中で、主体的に、いつでも学べる環境を作る。
- ②学びのプログラムづくりを通じた地域づくりを、さらに柔軟に、多方面で展開し、障害者の生涯学習をサポートする地域資源（人・場所・環境等）を増やしていく。  
→被災地や過疎地でも、学びを通して誰かとつながり支え合えるように。

## 事業実施体制

連携協議会：大学教員、特別支援学校教員、教育委員会、福祉課、基幹相談支援事業所、保護者の会、当事者会、地域の文化芸術団体、アーティスト、事務局スタッフ 計16名  
アドバイザー：東北福祉大学 産業福祉マネジメント学科准教授  
コーディネーター・・・NPO代表（社会教育士・精神保健福祉士）

## 学習プログラムの内容

- ①ユニバーサル学習：障害の有無にかかわらず誰もが楽しく学ぶことができるプログラムを開発する。テーマは当事者アンケートをもとに検討する。
- ②みんなでつくる・アートのじかん：プロのアーティストと一緒に作品制作することを通じて、自己表現する体験をする。
- ③そうだ！たいそうに行こう：当事者が町の生涯学習プログラムに参加し、社会教育施設を会場として地域住民と共に体操を楽しむ。
- ④うたカフェ：地域の合唱サークルと共に、発表会に向けたプログラムを共創していく中で、表現や協働の楽しさを体験する。
- ⑤自然&宿泊体験@蔵王自然の家：県生涯学習課との連携で、町を飛び出して、蔵王の大自然や文化、仲間との活動を楽しむ。

## 今年度の取組状況

- ◆「山元こぐまサロン」参加者総数：延べ1008人  
（内訳：障害児者342、保護者46、一般298、講師89、教員34、学生等のボランティア20、行政職員34、関係機関24、支援スタッフ121）
- ◆「ユニバーサル学習の開発」と、「学習プログラムづくりを通じた学び続けることができる地域づくり」に取り組んだ。そのプロセスで、各取り組みが相乗効果をあげ、参加者のエンパワメント、地域のエンパワメントにつながった。具体的には、このサロン学習の活動が、当事者の日常生活の中で大きな「出来事」に位置づけられ、家族などに語られるようになった。地域の人にも学びやすい学習プログラムを開発し、その学びやすさが属性を超えて様々な人が参加し、学びを通じた新たな関係の形成につながり、地域交流が広がった。学び続けることができる地域づくりを行政（障害福祉、生涯学習、地域福祉）と連携し継続していくことができる環境が整備できた。

## その他

ポラリス  
HP



ポラリス  
チャンネル



「超福祉の学校」  
での活動紹介



文部科学省  
mextchannel



支援学校の生徒とアート制作



地域の体操サークルでストレッチ



歌で声を出すって気持ちいい！